

知っておこう！学習展開の基本形（例）

主体的・対話的で深い学びの実現へ

学習の問題（課題）を把握する

- ① 学習の問題を設定する
 - ・ 社会的事象を知る
 - ・ 気付きや疑問を出す
 - ・ 学習の問題を設定する
- ② 解決まで見通しをもつ
 - ・ 自分で予想する
 - ・ 追究の方法を考える
 - ・ 計画を立てる

学習の問題について追究する

- ③ 自分でたてた予想や計画に基づいて調べる
 - ・ 観察や見学、調査等を行う
 - ・ 資料から自分にとって必要な情報を集めて読み取る
 - ・ 情報交換を行い、学習の内容を深める

④ 社会的事象の特色や関連性、意味を考える

- ・ 事実に沿って考える
- ・ 多面的・多角的に考える
- ・ 子供同士で話し合い考えを深める

学習の問題を解決する

- ⑤ 調べたことや考えたことを関連させまとめる
 - ・ 学習の問題を振り返って結論づける
 - ・ 結論について出し合う

学習成果を振り返り
考えを再構成する

- ⑥ 学習したことを振り返る
 - ・ 自分の追究の方法を振り返り考える
 - ・ 学んだことの自分なりの意義を考える
- ⑦ 社会全般に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて社会への関わり方を選択し判断する
 - ・ 社会の課題を知り、社会の発展や自分の生活について再度考える

つかむ

調べる

まとめる

深める・いかす

○子供が学ぶ必然性や主体性を高められる学習の問題を設定する①②

学習の問題とは、教材との出会いから生まれた児童の問題意識や追究意識を継続させ、社会生活の様子についての理解を深め、単元目標に迫る学習を進めるための問題

学習の問題には、

- どのような～？～は何だろう？→事実を追究
- どのように～？→事実や過程を追究
- なぜ～？→理由や因果関係を追究
- ～はどちらが良いか？→選択の根拠を追究
- ～どうすべきか？→自分の行動に繋げる 等

問題解決的な学習展開にしていくために、子供の気付きや疑問を生かして学習問題を作ります。その時、子供たちの予想を学習計画に生かすことで、学ぶ必然性や主体性を高めることができます。

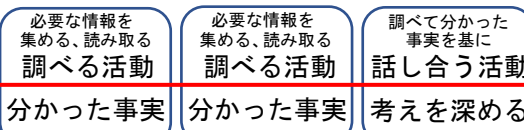
○子供が学習の問題を解決するための学習活動を構想する③④

学習活動とは、「調べる」「話し合う」「まとめる」などと表現される子供の活動

調べる活動（主体的な活動）

- ・ 問題解決に必要な情報を集める、読み取る活動
- 調べる方法には、
 - 地域の様子を観察して
 - 関係者への聞き取りやアンケート調査を通して
 - 地図や年表などの資料で調べて模擬体験を通して
 - 資料館や博物館を見学して
 - インターネットで調べて 等

調べる活動は、「～（方法）を通して、問題解決に必要な～（社会的事象）についての情報を集める（読み取る）」という構造を意識して調べる活動を構想することが大切です。



学習の問題解決に向かう

調べて分かった事実を積み重ね、対話的な活動を通して理解を深め学習問題解決に向かっていくイメージ

話し合う活動（対話的な活動・深い学び）

- ・ 子供が互いの言葉を受け止め、対話しながら集団や個人の考えを深める活動
- 対話には、
 - 子供同士の対話
 - 教師と子供の対話
 - ゲストティーチャーなど外部の人と対話
 - 歴史上の人物、先人などとの自己内対話 等

話し合い活動を行う時は、調べて分かったいくつかの事実を根拠として、社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などを多面的・多角的に考え、論理的に説明したり、議論したりすることが大切です。

○学習の問題に対する考えをまとめ、思考力・判断力・表現力を育成する⑤⑥⑦

まとめる活動

- ・ 調べたこと、分かったこと、考えたことなどを文章でまとめたり、白地図や年表、図表などにまとめたりする活動
- まとめる方法には、
 - 文章でまとめる
 - 年表にまとめる
 - 図表（思考ツールなど）にまとめる
 - 新聞、リーフレット、などの作品にまとめる 等

学んだことをまとめる活動を通して、生きて働く知識・子供が後々使える知識（概念的知識の形成）を獲得させていくことが求められます。